

WINDS CAFE 328 in 原宿 ミニマルの本分

テリー・ライリー×久石譲

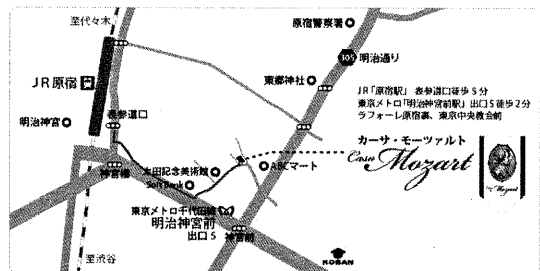
NHK 番組でも対談した巨匠二人の弦楽四重奏曲を同時に聴ける機会は滅多にない！？
ミニマル・ミュージックとは何か？いや、「ミニマル」とは何か？
古今東西の名曲を聴き逃すな！！

Violin1 迫田圭 Violin2 加藤美菜子
Viola 亀井庸州 Violoncello 北嶋愛季

Giacomo Puccini : String Quartet “Crisantemi”
Joseph Haydn : String Quartet op.76-6, Hob III:80
Terry Riley : G SONG
Joe Hisaishi : String Quartet No.1

2024年4月21日(日) Open:13:30 Start:14:00

カーサ・モーツァルト(原宿駅より徒歩すぐ)
入場料無料、投げ銭制



*コロナやインフルエンザの流行状況を鑑み、カーサ・モーツァルトの判断により、事前予約制(人数制限はしません)・終演後のパーティ中止での開催とすることがありますので、ご了承下さい。

詳細・予約方法については、3月第5週以降に下記 URL サイトをご覧ください。

<http://tatsutoshi.my.coocan.jp/Up.html>



ジャコモ・ブッチーニ:弦楽四重奏曲「菊」

イタリア人の作曲家であるブッチーニは、生涯で数々の名作オペラを作曲した。その中でも出世作と言われる「マノン・レスコー」を作り始めた頃、彼のパトロンであったアオスタ公アメデオ1世が急死してしまう。その追悼のために、ブッチーニはこの作品を一晩で完成させたと伝えられている。

嬰ハ短調。数少ない器楽作品であるが、随所に現われる憂いに満ちた旋律は、ブッチーニらしい美しさと奥深さを持っている。

ヨーゼフ・ハイドン:弦楽四重奏曲第65番

交響曲の父、またの名を弦楽四重奏曲の父と呼ばれるヨーゼフ・ハイドンは、1000曲もの作品をこの世に残したと云われる。弦楽四重奏曲も現存するもので83曲あり(のちに偽作と判明したものが多々あり、現在は68曲程とされている)、この作品は64歳と比較的晩年に書かれたものである。

エルデーディ伯爵の依頼で作られた6作品のうち一曲だが、「五度」、「皇帝」、「日の出」等の愛称がついたその他の作品と比べて圧倒的に演奏頻度が少ないのが本日演奏される65番だ。

全体的に変ホ長調の時間が長く転調が少ないものの、2楽章はめまぐるしく転調を繰り返すため、この時代にしては珍しく調号が記されていない。親しみやすい旋律が少なく冗長だと云われ人気の無い作品であるものの、ハイドンの高度な作曲技術や独特な茶目っ気が随所に見て取れる古典派音楽の最高傑作の一つだと思う。

第1楽章 Allegretto-Allegro 第2楽章 Fantasia Adagio 第3楽章 Menuetto Presto 第4楽章 Finale Allegro spiritoso

テリー・ライリー:G SONG

ライリーはアメリカ出身の作曲家。スティーブ・ライヒらと並ぶミニマルミュージックの代表的な作曲家である。彼は長年にわたり同じくアメリカを代表する現代音楽に特化した演奏家であるクロノス・カルテットと良好な関係を築いており、この作品はクロノス・カルテットのために書かれた最初の曲である。ジャズのコード進行上にGマイナーの16小節のテーマが演奏され、それが次第に変容していく。コード進行はジャズとあるが、どこことなくバロック音楽のような雰囲気をもった作品であり、次第に移り変わる様は非常に心地よい。

久石譲:弦楽四重奏曲第1番

久石譲が2012年に作曲した室内楽曲集「フェルメール&エッシャー」の中から、エッシャーのだまし絵にインスピレーションを受けて作られた4曲を弦楽四重奏曲として新たに構成したものである。以下には題材となった版画の解説を載せた。題名+エッシャーで検索すると画像が見られるので興味がありましたら是非。

第1楽章 Encounter 右から白色の人物の集団が、左から黒色の二足歩行の生物の集団が中心で出会う様子が描かれている。だが背景を見ると白色の人物の余白部分から黒い生物が出現している様に見える。

第2楽章 Phosphorescent sea 直訳すると、青光りの海。夜空と波の様子が神秘的な絵だが、波の描かれ方が段々畑のようで特徴的である。

第3楽章 Metamorphosis 田園風景の中、左右逆方向に飛ぶ白い鳥と黒い鳥が描かれているが、よく見ると白い鳥の間には黒い鳥が、黒い鳥の間には白い鳥が描かれている。

第4楽章 Other world レンガで作られた立方体の建築構造物に鳥やラツバが描かれている。不思議な構造となっており、どちらが上か下かわからなくなるような浮遊感はまるで宇宙のどこかにある異国のようである。